

# 研修報告書

寧夏回族自治区 寧夏医科大学附属医院核医学科

医師 趙 峰

2009年6月20日

8カ月間の研修は終了した。

この8カ月の研修期間において指導の先生方から丁寧なご指導を受け、核医学について基礎から臨床まで系統的に勉強することができた。PET/CTの基礎と臨床は、今回研修の主目的であり、満足できる成果が得られた。

1. 画像診断学の医師として臨床的な思考方式がなければならない。また、しっかりした基礎医学、臨床医学、典型的画像診断学の基礎理論と技術を身に付けるだけではなく、核医学画像の原理や病態の画像形成の過程を把握しなければならない。画像を詳細に分析しないままに書籍からの画像形成イメージを鵜呑みにし、画像が類似しているだけで主観的に判断したら、誤診してしまう。この点については簡単のように見えるが実際において、特に経験の浅い若い医師らが「典型的」な画像に迷わされ深く検討せず結論を下してしまうことが多い。「同じ病気だが症状が違う」、「違う病気だが同じ症状だ」などについては認識不足である。これらの現状に対して、研修期間に学んだ画像分析方法及び研修期間に収集した多くの病例画像を整理して、マルチメディアを使って私の大学の核医学科の医師等を対象に短期講義を実施し、画像分析の重要性を理解してもらいたいと考えている。

核医学医としては核医学画像診断の臨床的な意義および画像判読により疾患への理解を深めなければならないが、まだ知識・経験の豊富な医師が少ないのが今後の課題である。第一は、核医学に従事する医師は、核医学画像の臨床的意義並びに画像分析の際に考慮しなければならない問題を十分に理解しなければならないことである。第二は、臨床医としては核医学が臨床においてどんな問題を解決できるか、また、核医学画像がどのような疾病の診断に役に立つのかを熟知していなければならないことである。私が考えている講義は、画像診断学の若い医師の医療活動にとって非常に意義が深く、積極的な指導意義があるものだと、同僚から評価されている。

2. SPECT/CT の臨床において、われわれは甲状腺画像を現す機能を臨床に応用している。核医学科ではまだ実施していない唾液腺画像、成人肝臓胆嚢画像、脳の船体及び局部の血液流量測定等項目については現在、それと関連する臨床学科と積極的に連携し、既存の情報と資料に対する評価を進めている。今年度末、または来年初頭に1~2の新技術実施を申請したいと思っている。

3. PET/CT が今回の研修の重点であった。李亜明教授並びに先生各位のご指導の下に、PET/CT の原理や医療用加速器（サイクロトン）の原理及び放射性医薬品の実験や合成について初歩的な認識と理解を得た。特に FDG PET/CT 画像は、腫瘍の選別、腫瘍の定性診断、腫瘍期の区分、不明な原発症の検査、治療計画への協力、治療効果のモニタリングと予測、再発モニタリングと期間再区分などについてより深い知識を得た。本学に戻り、核医学科の主任に PET/CT の運用について詳細に報告する。ハード面（立地、建設、施設、設備）と人員、ソフト面（制度、操作規程、作業の流れ）について、また管理運営担当者には主要医務職員の配備について、すなわち主に物理医薬グループ、医療技術グループ、総合グループ等について、中国医科大学での研修期間に学んだ知識に基づき、私見を發表したい。来年の PET/CT の導入に備えて、いまから関連人材の導入、或いは関係者に対するトレーニングを実施して、基礎理論の勉強と基本技術の訓練を実施すること、核医学界の著名な専門家を招いて講義して頂くこと等を通じ、大学病院のすべての医務関係者に、PET/CT という大きな設備について初歩的な理解をしていただく。すなわち、PET/CT は果たして臨床において何を解決できるのか・・・期待は膨らむ。

総じてこの8カ月の研修期間の成果については非常に満足しており、予期した目的を達することができた。当然ながら、これは偏に笹川保健記念協力財団の助成、そして中国医科大学国際交流処才越処長、王琛先生、中国医科大学第一附属医院核医学科の李亜明教授及び核医学科のすべての先生に感謝しなければならない。これらの方々の弛まぬ努力と勤勉な仕事があつてはじめてわれわれ中国医科大学笹川医学研修センター第1期研修生は順調に研修を終了することができた。

ここで、改めて衷心より御礼申し上げる。

以上

## 指導教官の評価

### 李亜明教授の趙峰の評価

趙峰医師は、本学第一附属病院の核医学科で研修に非常にまじめに取り組み、成果を出しています。また、核医学科臨床業務にも真剣に取り組んで経験を積み、基礎医学理論も身につけました。

臨床的な分析能力と思考能力があり、核医学科の先生たちともとてもいい交流をしています。積極的に、国内外で医学分野の先端的画像技術PETの画像の採集・画像の分析・病歴の裏づけを研究し、また薬学も熱心に勉強しています。

一連の研修を通し、臨床応用能力も上達し、問題の解決の考え方もたくさん身につけました。

E C Tと外来勤務していた時にも、画像診断を研修し、治療への経験と技術を積み重ねてきました。

教学の方面にも本学の核医学科の論理部門・実習部門に真面目に取り組み、私どもの先生達とたくさん交流をもつなど、とても熱意を持って様々な課題に取り組んでいます。

以上の点から、趙峰さんは科学研究や課題研究の両面からみても、ハイレベルな素質とまじめな態度を持っており、本学の核医学科室の皆に認められ、優秀な研修生と評価されました。



